

# やくそう ゆほん 薬草喩品五箇の大事

**第一 薬草喩品の事** 記の七に云はく「無始の性徳は地の如く、大乘の心を発おこすは種の如し。二乗の心を発おこすは草木の芽げ茎きょうの如し。今初住に入るは同じく仏乗の芽茎等を成ずるが如し」と。

御義口伝に云はく、法華の心を信ずるは種なり。諸法実相の内証に入れば仏果を成ずるなり。薬とは九界の衆生の心法なり。其の故は権教の心は毒草なり。法華に値あひぬれば三毒の煩惱の心地を三身果満の種なりと開覚するを薬とは云ふなり。今日蓮等の類たぐい妙法の薬を煩惱の草に受くるなり。煩惱即菩提・生死即涅槃と覚らしむるを喩ゆと云ふなり。釈に云はく「喩ぎょうくんとは曉訓なり」と。薬草喩やくそう ゆとは我等行者の事なり。

## 第二 此の品述成段の事

御義口伝に云はく、述とは迦葉なり、成とは釈尊なり。述成の二字は迦葉釈尊一致する義なり。所詮述しよせんは所化りょうげの領解、成は仏いんかの印加なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と領するは述なり、日蓮が讚歎さんたんするは成なり。我等が即身成仏を説き極めたる品なり。述成いっちふけい一致符契するは述成不二の即身成仏なり。此の述成は法界三千の皆成仏道の述成なり。

## 第三 雖一地所生 一雨所潤等の事

御義口伝に云はく、隨縁不變の起こる所の文なり。妙楽大師云はく「隨縁不變の説は大教より出で、木石無心の語は小宗より生ぜり」と。此の大教とは一經の總体に非ず、此の「雖一地所生、一雨所潤、而諸草木、各有差別」の十七字を指すなり。一地所生一雨所潤むしゃべつひは無差別譬、而諸草木 各有差別うしゃべつひは有差別譬なり。無差別譬の故に妙なり、有差別譬の故に法なり云々。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは有差を置くなり。二十八品は有差別なり、妙法の五字は無差別なり。一地とは迹門の大地なり、一雨とは本門の義天なり。一地とは從因至果じゅういんしか、一雨とは從果向因じゅうかこういんなり。末法に至っては從果向因の一雨を弘通するなり。一雨とは題目に余行まじを交へざるなり。序品の時は雨大法雨と説き、此の品の時は一雨所潤と説けり。一雨所潤は序品の雨大法雨を重ねて仏説き玉ふなり。一地とは五字の中の經の一字なり、一雨とは五字の中の妙の一字なり。法蓮華の三字は三千万法、中にも草木なり。三乗・五乗・七方便・九法界なり云々。

## 第四 破有法王 出現世間の事

御義口伝に云はく、有とは謗法の者なり、破とは折伏なり、法王とは法華經の行者な

り、世間とは日本国なり。又云はく、破は空、有は仮、法王は中道なり。されば此の文をば釈迦如来の種子と伝ふるなり。総じて三世の諸仏の出世は此の文に依るなり。有とは三界二十五有なり、破とは有執を破するなり、法王とは十界の衆生の心法なり、王とは心法を云ふなり、諸法実相と開くを破有法王とは云ふなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは、謗法の有執を断じて釈迦法王と成ると云ふ事なり。破有の二字を以て釈迦如来の種子とは云ふなり。又云はく、有と云ふは我等が煩惱生死なり。此の煩惱生死を捨て、別に菩提涅槃有りと云ふはごんきょうごんもん権教権門の心なり。今經の心は煩惱生死を其のまま俥置いて菩提涅槃と開く處を破と云ふなり。有とは煩惱、破とは南無妙法蓮華經なり。有はしょは所破なり、破はのうは能破なり。能破所破共に実相の一理なり。序品の時はじんしょうけつ尽諸有結と説き、此の品にははうほうおう破有法王と説き、譬喩品の時はかいぜがう皆是我有と宣べたり云云。

#### 第五 が かんいっさい ぶ かいびょうどう む う ひ し あいぞうしん が む とんじゃく やく む げん げ 我觀一切 普皆平等 無有彼此 愛憎之心 我無貪著 亦無限碍の事

御義口伝に云はく、此の五句の文は五識なり。我觀一切 普皆平等とは九識なり、無有彼此とは八識なり、愛憎之心とは七識なり、我無貪著とは六識なり、亦無限礙とは五識なり。我等衆生の觀法の大体なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は、あに豈我觀一切 普皆平等の九識修行に非ずや。爾らば無有彼此に非ずや、愛憎之心に非ずや、我無貪著むげんげに非ずや、亦無限碍に非ずや。